

新潟市都市計画基本方針

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

これは、「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指すものです。

都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全
- 都市及び地域の拠点の育成
- 地域の拠点間の連携

図 都市構造概念図



(都市計画課)

住民参加のまちづくりの推進

—より多くの市民がまちづくりに興味を持ち、参画する住民主体のまちづくりを推進します—

新潟らしいまちづくりを実現するためには、歴史と文化を活かし、都市基盤整備と一体となった住民主体のまちづくりを推進する必要があることから、地域住民によるまちづくりのための組織づくりや、まちづくり勉強会などを支援します。



(早川堀通り周辺まちづくりを考える会)

早川堀通り水と緑のみちづくり推進事業においては、地元まちづくり団体と勉強会、社会実験、現地視察、整備内容や維持管理について検討を行うなど、地域住民と協働でまちづくりを進めています。

萬代橋誕生祭など、新潟市をより魅力ある都市とするために、まちづくり団体が行う活動を支援します。



(萬代橋誕生祭)

(市街地整備課)

コミュニティを醸成する市街地整備の推進

鳥屋野潟南部開発計画

ー水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性 鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーンー

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

新潟市民病院



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業により基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

(仮称) 食と花のいがた交流センター建設地



HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)



鳥屋野潟南部地区 A=270ha

鳥屋野潟南部地区全景

まちなかのリニューアル

ー中心市街地を活性化し、にぎわい・魅力のあるまちなかを創出しますー

民間建築活動との連携により土地の高度利用と都心居住の促進を図り、誰でも利用できる広場や緑地等の公開空地を整備することで中心市街地のにぎわい再生を推進します。また、中心市街地において、公益施設等の都市機能の導入やにぎわい空間を創出するため、空きビルの活用や公開空地等の整備を支援する暮らし・にぎわい再生事業に取り組みます。



【寄居町地区
まちなか再生建築物等
整備事業】
既成中心市街地である
古町周辺地区に建築され

た築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。



【西堀通6番町地区
まちなか再生建築物等整備事業】
低未利用地に、住宅と商業施設による複合ビルを建設し、都心居住の促進と土地の合理的かつ健全な高度利用により、中心市街地の活性化を図ります。

緑豊かな敷地内通路

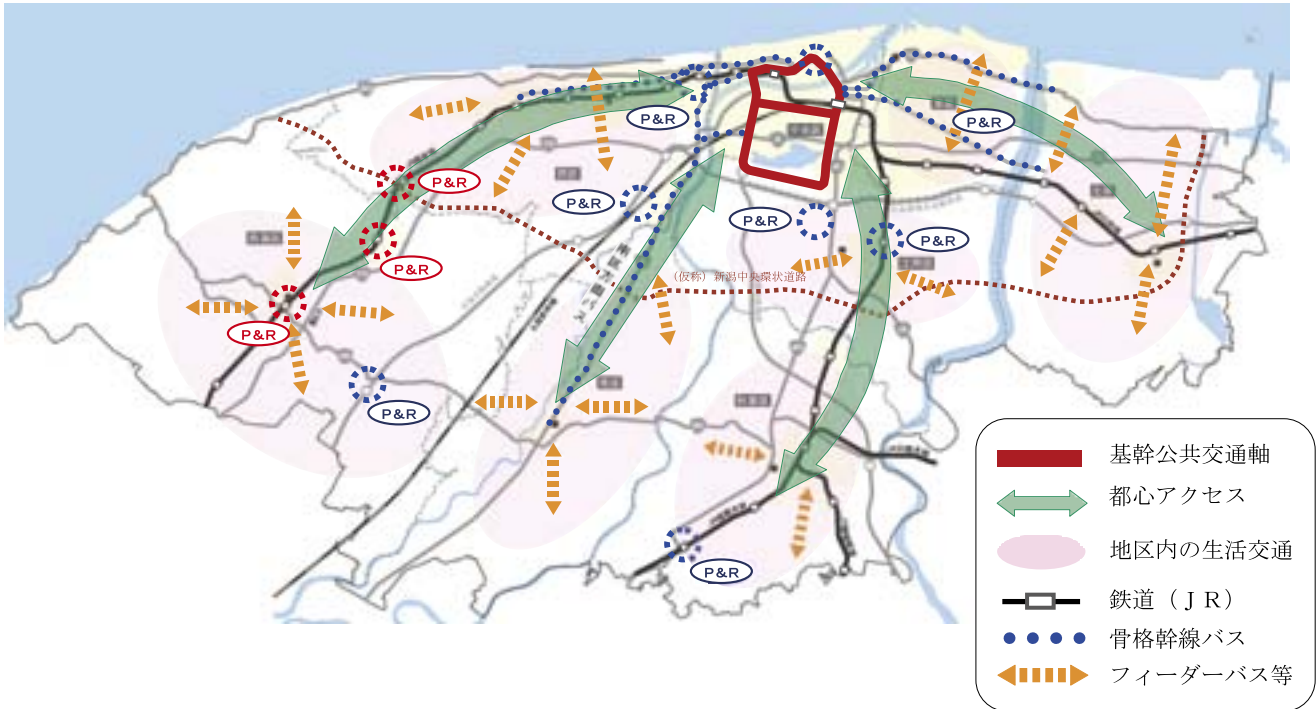


(市街地整備課)

快適に移動できる交通便利都市を目指して

「にいがた交通戦略プラン」&「オムニバスタウン計画」の推進

基幹公共交通軸を中心にバス交通の機能強化を図るとともに、区バスや住民バスなどにより、生活交通の確保に向けて取り組みます。



バスICカード「りゅーと」の活用

バスの定時性・走行性の向上と併せて、乗継割引や他機関との連携など、市民生活に便利なバスICカードの活用に取り組めます。



バスICカード「りゅーと」
平成23年4月24日サービス開始
(平成25年春 Suicaとの連携を予定)

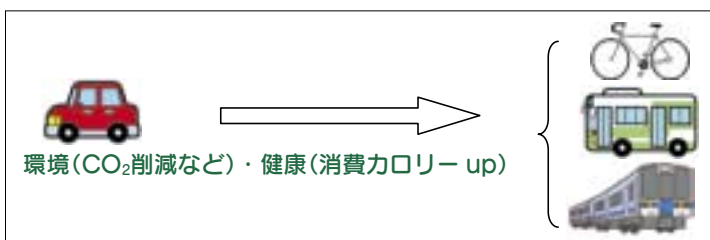


バスICカード乗車券イメージキャラクター
「りゅーとくん」と「ゆーとくん」

資料提供：新潟交通株式会社

モビリティ・マネジメントの推進

ノーマイカーデーの実施など市民の意識啓発により過度なマイカー依存からの脱却を目指します。



※モビリティ・マネジメント（MM）とは、過度に車が利用されている状況において公共交通や自転車などへ自発的な交通行動の変化を促すコミュニケーションを中心とした交通施策

(都市交通政策課)

新たな交通システムの導入に向けた検討

医療・教育・商業・文化・行政など高次な都市機能が集積している都心部において、自動車を使わなくても誰もが快適に移動しやすい交通環境とするため、“わかりやすく” “使いやすい” “魅力的” な新たな交通システムの導入を目指します。

姉妹都市 ナント（フランス）におけるBRT（次世代型バスシステム）、LRT（次世代型路面電車システム）



◇新潟市新たな交通システム導入検討委員会 の提言内容

平成22年度に学識経験者・関係機関・市民組織等による検討委員会を設置し、本市にふさわしい新たな交通システムの導入方向性について検討した結果について、平成23年5月に市へ提言がなされました。

1. ルートについて

- 区間A（白山駅—古町—新潟駅—鳥屋野潟南部）を優先整備区間とすべきである。
- 特に都心軸（区間A1：市役所—古町—新潟駅）を最優先にすべきである。

2. システムについて

- 基幹公共交通軸に導入するシステムとしてはBRT，LRTが望ましい。

3. 導入シナリオについて

- ①当面BRTの早期導入を目指す。
- ②今後の環境の変化を踏まえ、次のステップ（LRTへの移行等）について判断する。※
※判断時期としては新潟駅高架下交通広場の供用のめどがつく頃とする。



■区間A1【市役所～古町～新潟駅】 BRT



■区間A【白山駅～古町～新潟駅～鳥屋野潟南部】 BRT LRT



導入イメージ

（新交通推進課）

～日本海交流都市の拠点づくり～

新潟港利用活性化事業

近年の東アジア地域の経済成長により、物流の日本海側へのシフトが顕著になっており、この活力をわが国に引き込む上で、新潟港は、大変重要な役割を担っています。

<主な事業>

- ・「日本海側拠点港」の選定に向けた取り組み
- ・日本海横断航路の開設
- ・北関東圏を視野に入れたポートセールス



新潟空港利用活性化事業

新潟空港の航空需要の拡大を図り、活性化を促進するため、利用客の増加や国際交流の促進などの事業を実施し、新潟空港の拠点化を高めます。

<主な事業>

- ・国内・国際各既存路線の活性化
- ・中国首都圏方面等への新規航空路開設に向けたエアポートセールスなどの実施

万代島にぎわい空間創出事業

「みなとまち新潟」を象徴する、活力と魅力あふれる「にぎわいの港」空間を創出し、交流人口の拡大を図ります。

<これまでの動き>

万代側の魚市場跡地に、民設民営の市民市場「ピアBandai」が、オープン

<主な事業>

- ・朱鷺メッセ側漁協跡地についての関係者協議
- ・土地利用の方向性を明確化



(港湾空港課)

新潟駅周辺整備事業概要



新潟駅周辺整備は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、環日本海の中核拠点都市にふさわしい都市機能の強化や、都心としての象徴的な地域づくりに向け、鉄道在来線の高架化や幹線道路・駅前広場などの都市基盤をはじめ、駅周辺市街地の整備を図ることを目的としています。

○鉄道連続立体交差化

事業名：JR信越本線等新潟駅付近連続立体交差事業
延長：L=約2.5km（撤去踏切：米山踏切、天神尾踏切）

○幹線道路の整備

- ・新潟鳥屋野線 W=30m,L=816m
- ・新潟駅西線 W=22m,L=831m
- ・新潟駅東線 W=22m,L=750m
- ・明石紫竹山線 W=18~22m,L=766m
- ・出来島上木戸線 W=22m,L=1,855m
(うちL=1,197m分のみ事業認可)

○駅前広場の整備

- ・万代広場 約1.85ha
- ・南口広場(弁天線含む) 約1.4ha
- ・高架下交通広場 約0.4ha

連続立体交差事業（仮線施工状況）



JR信越本線等は、新潟駅周辺の約2.5kmの鉄道を高架化することにより、踏切除去（2箇所）による踏切事故の解消、都市内交通の円滑化、公共交通の利便性の向上など、鉄道で分断された市街地の一体的整備を総合的に行う事業です。平成23年度は、高架化に伴う仮線の整備と一部供用、及び高架本体工事に着手していきます。

白山駅周辺整備事業

連続立体交差事業による新潟駅のスリム化に伴い、白山駅のホームと線路を「2面3線」に改造します。

あわせて、地下自由通路、地下駅舎、駅前広場などの整備を行います。

これにより、白山駅南側からも駅利用が可能になるとともに、駅舎や駅前広場のバリアフリー化が進み便利になります。



(新潟駅周辺整備事務所)